

会議録（要旨）

[担当区分： 庶務 ・ 給付 ・ 医療 ・ 計画 ・ 支給管理 ・ 基幹 ・ 全 ・ その他]

会議名等	令和7年度第2回吹田市精神障がいにも対応した 地域包括ケアシステム専門部会		文責	伊達
日 程	令和8年3月17日（火）	場 所	千里市民センター 大ホール	
参 加 者	くらしの支援センターみんなのき/サポートいちえ/シード/生活支援センターめい/千里みおつくしの杜相談支援センター/コミキャンヘルプサービス/エスペランサ/サポートセンターフルハウス/りあん/赤レンガ/ルビア/片山・岸部障がい者相談支援センター/社会福祉協議会/すいた障がい者就業・生活支援センター/大阪府立吹田支援学校/榎坂病院/大阪大学医学部附属病院/済生会千里病院/有希クリニック/岸辺こころのクリニック/ハントン訪問看護ステーション/訪問看護ステーション デューン吹田/ACT-ひふみ/訪問看護ステーション山胡桃/消防本部警防救急室/生活困窮者自立支援センター/大阪府福祉部障がい福祉室/都市計画部住宅政策室/地域教育部青少年室/健康医療部地域保健課/福祉部障がい福祉室 (参加者順不同)			
開会挨拶 （福祉部 障がい福祉室）				
1 令和7年度会議等実施報告・・・資料1-1、1-2 （福祉部障がい福祉室/健康医療部地域保健課）				
精神科病院入院者への働きかけとして、本人への意欲喚起や地域生活への不安解消、病院と地域の支援者の共通理解を促進する場の構築を行っている。また、地域で暮らす精神障がい者を支える地域づくりとして、精神科と身体科の医療連携やアディクションのある方への支援を実施した。また、災害時への準備や対応困難な事例への支援の在り方について研修を実施した。市民への普及啓発としては、心のサポーター養成講座やこころによりそうボランティア養成講座、令和7年度メンタルヘルス市民講演会を実施した。				
2 榎坂病院の取組報告・・・資料2-1、2-2 （榎坂病院）				
<大阪府長期精神障がい者退院支援強化事業の取組> 令和6年度の研修では、大阪府より退院支援の現状について、他圏域の情報や事例を紹介したり、にも包括に関する取組についての説明、地域移行支援を利用した当事者メッセージの動画視聴をしている。 令和7年度の研修では、退院先としてグループホームを候補としてあげる方がいるが、支援者側がグループホームについて具体的に知らないことが多かったため、グループホームを活用した退院支援について講師を招いて実施した。研修後には、希望する方と一緒にグループホームの見学も実施している。 <外出訓練の取組> 屋外プログラムが年4回と限られており、患者様が社会に触れる機会が極めて少ない状況にあった。こうした現状を改善するため、定期的な外出による気分転換の場を提供し、				

心身の活性化を図ることで社会復帰や退院支援につなげる取組を2年前に開始した。

外出訓練の概要や流れについては資料を参照。今後は、退院後の生活を見据えた施設見学の実施や外出機会を増やすことで、地域での自立した社会生活へとつなげる必要性がある。

3 地域活動支援センターの取組報告・・・資料3-1 （各センター長）

(1) りあん（地域活動支援センターⅠ型）・・・資料3-2、3-3

人と人との関係性の中でありのままの自分でいられる場所として、いつ来ていつ帰ってもよい。毎日のプログラムはなく、何をしてもいい。理由がなくてもいい場所としている。

(2) 赤レンガ（地域活動支援センターⅢ型）・・・資料3-4

安心して過ごせる居場所として、社会に出ることに不安を感じている、生活のリズムを整えたい、コミュニケーションを楽しみたいといった方々が利用されている。またレジンやレザー、羊毛フェルト、木材などを使ったアクセサリーやキーホルダー、小物づくりをしており、作品を販売することもある。

(3) ルビア（地域活動支援センターⅢ型）・・・資料3-5

日中の時間を落ち着いて過ごせる「憩いの場」を提供するところ。社会とのつながりを目指している方の最初の一步を踏み出す居場所として、就労や社会参加に向けて支援をしている。羊毛フェルト、レジンクラフト、料理やゲームをしたり、読書など静かに過ごす方もいる。

4 グループワーク（事例検討）・・・資料4 （健康医療部地域保健課）

健康医療部地域保健課より提供のあった事例をもとに、グループワークを実施。

資料4は会議終了後回収。

閉会挨拶 （健康医療部地域保健課）